中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 規則性ナノ細孔を駆使した超多価イオン伝導材料の創出
2. 研究代表者： 貞清 正彰（東京理科大学 理学部第一部 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、配位高分子等の結晶性多孔体のナノ細孔を利用することにより、二価以上の価数を持つ様々な多価イオンを効率的に伝播する新規な超イオン伝導体を創出することを目的としている。フェーズ1では、明確な戦略に基づいて、規則性ナノ細孔、有機金属構造体（MOF）、共有結合性有機構造体（COF）の利用で伝導性として世界最高値を与える系を見出しており、優れた成果を創出している。学術面からも、深掘りした検討がなされており高く評価できる。フェーズ2では、MOFを用い、更に困難な超多価イオン（Al、Ti、Vなど）の多価イオン伝導という未踏領域に挑戦する。また、合成と構造解析を重ねてサンプル数を増やしつつ、伝導特性の向上と機構解明を目指しており、実現性の高い有望な計画であることから、さらなる進展を大いに期待する。

以上